

今あるものを長く大切に。

—MAISON YMG—

代表者 塩田郁哉（工学B 4年）
構成員 椎山武瑠（工学B 4年） 帯刀祐輔（工学B 4年） 南慶汰（工学B 4年）
渡邊杏（工学B 3年） 鈴木柊登（工学B 4年）

1. 概要

1. 1はじめに

本プロジェクトの目的は、「衣類の購買意識を見直すきっかけを作る」ことです。私たちは、不要になった衣類を回収し、選別したうえで販売する活動を行っています。また、着られない衣類については専門業者に買い取ってもらい、すべてが有効活用される仕組みを整えています。

この活動を通じて、衣類の処分について考える機会を提供し、リサイクルやリユースを身近な選択肢にしていきたいと考えています。特に、地域の方々と協力しながら取り組むことで、より多くの人にこの問題を伝え、行動の変化を促すことを目指します。また、SNSなどを活用し、衣類廃棄の現状や活動の成果を広く発信することで、より多くの人に関心を持ち、参加できる環境を整えていきます。

さらに、フリーマーケットなどで得た収益は、全額を地域に寄付し、衣類の循環だけでなく、地域の活性化にも貢献していきます。本プロジェクトが、多くの方にとって衣類の購入や処分を見直すきっかけとなり、持続可能な社会の実現につながることを願っています。



プロジェクトのメンバー

1. 2プロジェクトの背景

日本の家庭から出る衣類廃棄物は年間 75.1 万トン（2020 年時点）にのぼり、その約 66%が焼却・埋め立て処分されています。近年、インターネットショッピングの普及により、安価な衣類が気軽に購入・廃棄される傾向が強まり、衣類の消費と供給が繰り返されることで、廃棄問題の深刻化が懸念されています。

そこで、本プロジェクトでは、不要になった衣類が新たな持ち主へと渡る体験を提供することで、衣類の行く先を意識し、購買行動を見直すきっかけを作ることを目指しました。地域の方々とともにこの取り組みを進めることで、衣類を「捨てる」から「活かす」という意識へと変えていきたいと考えています。

1. 3私たちのきっかけ

本プロジェクトを立ち上げるにあたり、私たち自身がなぜ購買意識を見直す必要性を感じたのかを綴ります。

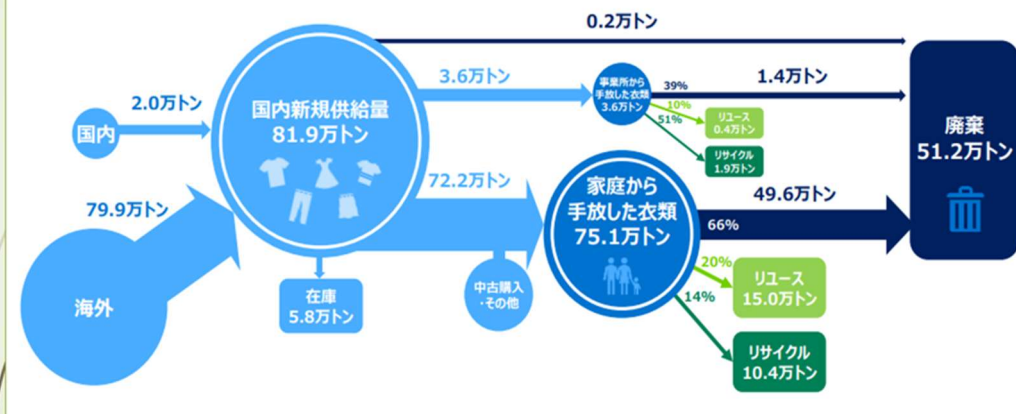
一つ目のきっかけは、本プロジェクトにご尽力いただいた樋口教授が開講されている「環境倫理・法規」の講義での学びです。特に、山口県産業廃棄物協会との合同授業では、現場で働く方々の話を直接伺い、衣類廃棄の深刻な現状を知る機会を得ました。そのなかで、「知識として学ぶだけでなく、実際に行動に移したい」と強く感じました。

二つ目は、私自身（塩田）の経験です。自身の家庭では、着なくなった服をすぐに処分し、新しいものを購入することが当たり前でした。これまでその行動に疑問を持つことはありませんでしたが、衣類廃棄の実態を知ることで、自身の消費行動を見直す必要性を痛感しました。

こうした気づきを、私たちだけでなく、多くの人と共有し、購買意識を変えるきっかけを作りたいと考え、本プロジェクトは始まりました。

3 ～問題点（環境負荷）～

2020年版 衣類のマテリアルフロー



- 衣類の国内新規供給量は81.9万トンに対し、その約9割に相当する計78.7万トンが事業所及び家庭から使用後に手放される

実際に講義で使用したスライドの一部

2. 活動内容

2. 1 情報発信

本プロジェクトの目的である「衣類の購買意識を見直すきっかけを作る」ためには、まず活動の存在を知ってもらうことが重要でした。そのため、情報発信に力を入れ、認知度の向上を図りました。

具体的には、チラシの制作や SNS (Instagram) の運用に取り組みました。自分たちでデザインしたチラシを、宇部市内の飲食店やコンビニエンスストアに掲示していただき、多くの方に活動を知ってもらう機会を作りました。さらに、SNS では活動の詳細や衣類廃棄問題について発信し、より幅広い層へ情報を届けることを目指しました。

地域の方々の協力のおかげで、活動への関心が高まり、多くの方が SNS を通じて情報を得るようになりました。こうした情報発信の積み重ねが、プロジェクトの目的達成へとつながっていくと実感しました。



実際に掲載していただいたチラシ

2. 2 古着回収イベントの実施

令和6年10月6日、フジグラン宇部のご協力のもと、古着回収イベントを開催しました。このイベントは、フジグラン宇部のご担当の方と直接お話しをし、私たちの活動の趣旨に賛同いただいたことから実現しました。

当日は、予想を上回る多くの方が不要になった衣類を持参してくださいました。家族連れや学生、ご年配の方まで幅広い世代の方々が参加し、それぞれの思いとともに衣類を託してくれました。「まだ着られるけど、もう使わないから誰かの役に立てば」「こうした取り組みがあることを知らなかった」といった声も寄せられ、私たちの活動が少しずつ地域に広がっていることを実感しました。

また、衣類を回収するだけでなく、地域の方々と直接交流し、本プロジェクトの目的や背景を伝える貴重な機会にもなりました。環境問題や衣類のリユース・リサイクルについて、関心を持つきっかけになったと話してくださる方も多く、情報発信の大切さを改めて感じました。

今回のイベントを通じて、約400着もの古着を回収することができました。また、衣類の購買意識を見直す第一歩となるきっかけを提供できたのではないかと考えています。今後もこのような活動を継続し、より多くの方に衣類廃棄の現状を知ってもらい、リユースの輪を広げていきたいと思っています。



古着回収イベントの様子

2. 3 古着の選別作業

回収した古着の状態を確認し、それぞれの販売価格をメンバーで慎重に決定しました。予想を大きく上回る量の古着が集まり、仕分け作業は想像以上に大変なものでした。しかし、一着一着の状態を確認し、どのように活用するかを話し合いながら進める作業は、ただの選別以上の意味を持っていました。作業を終えたときには、私たち自身の手で新たな価値を生み出したという大きな達成感を得ることができました。

回収した衣類を無償で提供するのか、それとも値段をつけて販売するのかは、非常に悩んだポイントでした。無償提供は誰にとっても負担がなく、多くの人に届けられる方法ではありますが、しかし、衣類に対する購買意識の変革という観点から見ると、無料で手に入るものは大切に扱われず、結果としてすぐに廃棄されてしまう可能性があるのではないかと考えました。そこで、最終的に 500 円から 2,000 円の範囲で安価に販売するという方針を決定しました。

この価格設定には、衣類を「商品」として認識し、大切に着続けてもらうという狙いがあります。例えば、何の負担もなく手に入る衣類よりも、自らの意思で購入したもののほうが、より長く大切にされる傾向があります。そのため、適正な価格を設定することで、衣類を使い捨てにせず、長く愛用してもらえらる環境をつくりたいと考えました。

さらに、このプロジェクトが単なる古着販売ではなく、学生主体の活動であり、回収・選別・販売のすべてを手がけた「ストーリーのある衣類」であることも価値のひとつです。このような背景を伝えることで、購入者の方にも「ただの古着」ではなく、「誰かが必要としていたものを、自分の手で受け継ぐ」という意識を持ってもらえるのではないかと考えました。

この活動を通じて、単なる衣類の回収・販売にとどまらず、購買意識の変革や持続可能な消費の在り方について考える機会を提供できればと願っています。

2. 4 姫山祭フリーマーケット出店

令和6年11月3日、山口大学の姫山祭に出店し、フリーマーケットを開催しました。本プロジェクトの一環として、事前に回収・選別した衣類を販売し、多くの方に手に取ってもらう機会を提供しました。特に学生を中心に、多くの来場者が訪れ、衣類のリユースに関心を持ってくださいました。

今回のフリーマーケットでは、ただ衣類を販売するだけでなく、衣類廃棄の現状やリユースの重要性を伝えることも目的としていました。実際に商品を手に取ってもらいながら、不要になった衣類がどのように活用されるのかを説明することで、多くの方に関心を持っていただけました。来場者からは、「すぐに服を捨てるのをやめようと思った」、「この活動についてもっと知りたい」、「来年もぜひ開催してほしい」といった声をいただき、本プロジェクトの意義を改めて実感しました。

また、同じ学生として、同世代の方々に直接話を伝えられたことも大きな成果の一つです。学生は特に流行や価格の影響を受けやすく、気軽に衣類を購入しがちですが、その一方で環境問題への関心も高まっています。実際に服を見て選び、購入する体験を通じて、衣類を長く大切に使うことの大切さを伝えることができたと考えています。

本プロジェクトは、ただ衣類を回収・販売するだけでなく、「衣類の購買意識を見直すきっかけを提供すること」を目的としています。今回のフリーマーケットがその第一歩となり、多くの方が「服の捨て方・買い方」について考える機会となれば嬉しく思います。今後も、より多くの方にこの活動を広め、持続可能な消費行動を促進していきたいと考えています。

尚、今回の姫山祭フリーマーケットで得られた収益は22,500円でした。



姫山祭フリーマーケットの様子

2. 5「ススメ！工学部」出演

令和6年12月5日、FM きららのラジオ番組「ススメ！工学部」に塩田と鈴木が出演しました。番組では、ラジオパーソナリティの方とともに、本プロジェクトのこれまでの取り組みや今後の展望についてお話ししました。

特に、活動を始めたきっかけやその目的について深く掘り下げる機会をいただきました。なぜこの活動を立ち上げたのか、どのような想いで取り組んでいるのかを丁寧にお伝えすることで、より多くの方に共感し、関心を持っていただけたのではないかと感じています。

ラジオという媒体を通じて、私たちの活動を幅広い層の方々に発信できたことは、大変貴重な経験となりました。限られた時間ではありましたが、多くの方にメッセージを届けることができ、大変嬉しく思っています。貴重な機会をいただいたFM きららの皆様、そしてお聞きくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



12月5日放送 今あるものを長く大切に おもしろプロジェクトでの活動について

CLOSE X

Image 17 of 23

ラジオ放送時の様子

2. 6ときわ公園フリーマーケット出店

令和6年12月15日、宇部市ときわ公園で開催されたフリーマーケットに出店しました。あいにくの悪天候に見舞われ、正午までの短時間の出店となりましたが、それにもかかわらず多くの方々が足を運んでくださいました。

今回のフリーマーケットでは、特に地域の方々との交流が印象的でした。これまでの活動では学生との関わりが中心でしたが、今回は幅広い世代の方々と直接お話しする機会を得ることができました。特に年配の方々との対話を通じて、衣類の再利用に対する考え方や、昔の衣類を大切にする習慣について学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

また、多くの方から衣類の値段設定についての質問をいただきました。「なぜこの価格なのか？」という疑問に対して、単に安価で提供することが目的ではなく、衣類の価値を再認識し、長く大切に着てもらうことを目指していることを丁寧に説明しました。実際に私たちの考えに共感し、「こういう取り組みは素晴らしい」、「また次回もぜひ出店してほしい」といった温かい言葉をいただき、大きな励みとなりました。

今回の出店を通じて、衣類の購買意識を見直すきっかけを作るという本プロジェクトの目的を、より多くの人に伝えることができたと感じています。短い時間ではありましたが、多くの学びと気づきを得る貴重な経験となりました。今後も、このような機会を大切にしながら活動を続けていきたいと考えています。

尚、今回のときわ公園フリーマーケットで得られた収益は、53,950円でした。



ときわ公園フリーマーケットの様子

2. 7川野商店へ古着持参

令和7年2月17日、これまでの活動で余ったすべての古着を川野商店に持参しました。着用可能な衣類だけでなく、傷みが激しく着ることができない衣類も含め、すべての衣類を資源として有効活用することを目的としています。

今回、回収された衣類のうち、まだ着用可能なものは東南アジアへ輸送され、リユースされます。一方、着用が難しい衣類については、工業用ウエスへとリサイクルされ、新たな形で活用されることになります。

これにより、私たちが回収した衣類は一切無駄になることなく、すべてが適切な形で再利用・再資源化されました。本プロジェクトの目的である「衣類の購買意識を見直すきっかけを作る」に加え、衣類の持続可能な活用方法についても実践を通じて学ぶことができました。今後もこうした取り組みを継続し、より多くの方に衣類の循環型消費の重要性を伝えていきたいと考えています。

尚、川野商店さんに買い取っていただいた衣類の総額は1,250円でした。



川野商店への古着持参

2. 8 宇部市への寄付

令和7年2月28日、本プロジェクトで得られた収益を宇部市に寄付しました。この寄付は、地域貢献を目指す活動の一環として行ったものであり、ふるさと納税制度を活用しました。寄付先は、宇部市が取り組むさまざまな地域振興や福祉事業への支援となります。

具体的には、寄付金は「子ども医療扶助金」や「プロスポーツイベント運営費」、また「中心市街地活性化事業経費」といった、地域の発展に直結する重要な活動に使われることとなります。これらの活動は、地域の未来を支えるために必要な事業であり、寄付が少しでもその一助となることを願っています。

2. 9 宇部市感謝状贈呈式

令和7年3月24日、宇部市感謝状授与式に出席させていただきました。この式典では、宇部市藤崎副市長と直接会談する機会をいただき、私たちのプロジェクトについて詳しくお話しさせていただきました。藤崎副市長からは、宇部市としてもごみ問題に力を入れて取り組んでいるとのお話を伺い、私たちの活動に対して激励のお言葉をいただきました。そのお言葉は、活動を続ける励みとなり、大変貴重な経験となりました。

私たちの活動が、少しでも地域のごみ問題の改善に寄与できることを願っています。授与式には、宇部日報の記者の方も来られており、私たちの活動について取材を受けました。取材内容は、後日宇部日報に掲載される予定です。このような機会を通じて、私たちの取り組みがより広く地域社会に伝わることを嬉しく思います。



感謝状授与式



今あるものを長く大切に。

Presented by MAISON YMG



こんにちは！私たちMAISON YMGは、近年問題視されているゴミ問題改善に取り組む学生団体です。「購買意識を見直すきっかけ」を活動のテーマとしています。

その買い物は、本当に必要か。その処分は、本当に適切か。少し考えてみてください。それだけで、より良い世界に貢献できるはずです。



MAISON YMGのメンバー

古着回収イベント



フジグラン宇部にて

昨年10月、フジグラン宇部店で古着回収イベントを実施しました。地域の方々から不要な衣類を約400着回収できました。

古着販売イベント



姫山祭にて

ときわ公園にて

昨年12月、山口大学姫山際・ときわ公園フリーマーケットに出店しました。回収した古着を販売しました。

余った衣類の行方



川野商店にて古着買取

今年2月、川野商店に余った衣類を買い取っていただきました。それらは衣類あるいは工業用ウエスとして再利用されます。

プロジェクトの実績



宇部市感謝状授与式

本活動で得られた収益を全額宇部市に寄付し、感謝状をいただきました。子ども医療扶助金等に使用されるということです。

発表用ポスター

3. 謝辞

今回のプロジェクトにあたって、常に適切な助言を提示してくれた九州産業大学の安部智憲さんに深く感謝申し上げます。また、多くのご指導をいただいた山口大学工学部の樋口教授に深く感謝申し上げます。並びに、樋口教授と共に活動のきっかけを与えてくださった山口県産業廃棄物協会の方々に深く感謝申し上げます。また、この活動を進めていくにあたって、多くの方にご協力いただきました。山口大学学生支援センターの石井さん、山口大学施設企画課の鳥越さん、山口大学工学部学務科学学生係の大川さんに適切なご助言をいただきました。

地域の方にも多くのご協力をいただきました。フジグラン宇部店副店長の方、ときわ公園フリーマーケット代表の方、川野商店代表取締役の川野さん、宇部市藤崎副市長に多くのご協力いただき、私たちの活動を応援してくださいました。

最後に、この活動に関わってくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

